

生産緑地における農業者と地域住民等の共同による取組

ちーむ そうだぼり ふちゅうし
Team 雑田堀（東京都府中市）

- 本地域は、府中市の中部に位置し、府中用水の支流である雑田堀用水の流域で、米やさつまいも等の栽培が行われており、農業者と小学校のPTAを中心に水利施設等の保安全管理（用水路を含む緑道の清掃）を実施していたが、農業振興地域ではないため、農地・水保安全管理支払へは取り組んでいなかった。
- 平成26年度の多面的機能支払の制度創設により、農地維持支払は生産緑地等も対象となったこと、また、水利施設等の保安全管理について、市の委託業務から交付金支払への転換が示されたことから、農家と小学校のPTAが中心となり、組織を立ち上げた。
- 従来、農家が実施していた施設の点検、「雑田堀水路に親しむ会」を中心として実施していた草刈等を活動組織の取組として実施。

【地区概要】

- ・取組面積 1.9ha（田0.2ha、畑1.7ha）
- ・資源量 水路0.7km、
- ・主な構成員 農業者・小学校PTA
雑田堀に親しむ会
企業社員等
- ・交付金 約26万円（H29）
〔 地域活動支援（農地維持支払） 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地域は 都市化が著しく宅地化され農地が減少していることから保全が重要。
- 平成14年頃から農業者と小学校のPTAを中心に水利施設等の保安全管理（用水路を含む緑道の清掃）を実施
- 水利施設等の保安全管理について、市の委託業務から市民協働ボランティア活動への転換が示された。



貴重な農地



幹線水路

取組内容

- 平成27年度から本取組により水路法面の草刈りを実施
- 緑道に日日草を植栽する活動
- 地域の小学校の放課後活動との連携（小学生に読み聞かせ等を実施）
- 構成員以外の地域協力者と「地域活動懇談会」を実施
- 市民協働まつりで活動事例を発表（参加者数50人程度）



活動組織と小学生等による水路の草刈り



読み聞かせ

取組の効果

- 構成員に限らず、小学生や保護者等が多く参加（毎回約50人参加）
〔 参加者構成比
①子供：壮年者：高齢者＝5:3:2
②男性：女性＝4:6
③農業者：非農業者＝1:9 〕
- 緑道の植栽、看板による注意喚起により、ゴミの投棄が減少
- 地域ぐるみで市議、援農ボランティア、企業社員等10名も活動に参加し地域が活性化
- 担い手の確保・育成が進みつつある。



看板の設置

【生産緑地における農業者と地域住民等の共同による取組】

項目		説明内容	備考
活動場所		東京都府中市矢崎町、是政、南町及び本町	
対象農用地面積		全体 1.92ha（田：0.19ha、畑：1.73ha、草地：－ha）	市街化区域（生産緑地）
対象施設		水路 0.7km、農道 ーkm、ため池 ー箇所	
交付金額（H29）		地域活動支援 4万円（農地維持：国費対象） 22万円（水路維持：都単補助） 資源向上支援（共同） ー万円 資源向上支援（長寿命化） ー万円	計26万円
活動開始年度		平成27年度～	
組織の構成員		農業者・・・農業者16名、農事組合法人ー 非農業者・・・非農業者26名、自治会ー、土地改良区ー、 雑田堀用水に親しむ会3名、地元小学校PTA11名、 地域住民6名、市議会議員2名、地元企業4社の代表者（飲料メーカー・菓子メーカー・総合卸売市場・博物館）	男性：26名 女性：16名
主な活動内容	地域活動	用水路の草刈り、遊休農地の発生状況の点検、用水路脇への植栽 推進活動としては、構成員外の地域協力者との協力・連携を図るため、意見交換会を実施している。	参加者の割合 農業者：非農業者＝1:9 男性：女性＝4:6 子ども：壮年：高齢＝5:3:2
	資源向上（共同活動）	絶滅危惧種の移植、農業体験学習の実施、緑肥・景観のためのひまわり・ポピーの栽培	自主活動
	資源向上（長寿命化）	ー	